

新年のご挨拶



一般社団法人日本エレベーター協会
会長 川崎 幹

新年、明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、ご家族と共に穏やかな新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は当協会の活動に格別のご理解を賜り、深く感謝申し上げます。本年もより一層のご支援を賜りたく何卒よろしく願いいたします。

さて、2022年は2月にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、それに伴う資源価格上昇により世界的なインフレとなりました。日本では新型コロナウイルス感染症の第8波の影響により、いまだ収束が見えていないウイズコロナの状況が続いています。一方では、北京冬季オリンピックやサッカーW杯が開催され、日本選手の活躍を見ることもできた年でした。2023年は専門機関等によると、わが国の経済は内需主導で回復が続くと言われております。個人消費はサービス関連のペントアップ需要を中心に回復が本格化することや、設備投資も大企業を中心に高水準の企業収益が続いていることに加え、デジタル化関連や環境関連などへの投資意欲が強く、増加基調が続く明るい見通しとなっております。

昇降機業界においては今年も忙しい日々が続くことが予想されますが、特に厳しい環境下で昇降機据付及び保守に従事されている会員の皆様には改めて感謝申し上げます。しかし、誠に残念ながら、昨年は重篤災害4件を含む17件（12月末現在）の労働災害が発生し、まさに非常事態となっております。会員各社におかれましては、自らの安全は自らで守るという強い意志を全員が持ち、会社一丸となった労働災害撲滅に向けた取り組みを重ねてお願いいたします。

新しい年を迎え、昇降機が担う社会的使命は、その重要性が増すとともに変化しており、地震や台風等の度重なる災害に対応するための昇降機、またバリアフリーの観点や、お年寄りや子供までより安心してご利用いただけるよう、安全、安心の取組みに対する期待と責務は益々重くなっております。2023年は「昇降機の安全、安心」の一層の推進に向けて取り組むとともに、エレベーター、エスカレーターの実用性に向けた周知活動にも地方公共団体、鉄道各社様と協力して推進してまいります。

最後になりましたが、この一年皆様とご家族の方々が安全で健やかに過ごされますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。